

# Speaker Notes



IBM Software Group | Rational software

IBM® Rational® ClearQuest®

*ClearQuest データベースの移動*

Rational software

@business on demand.

© 2007 IBM Corporation  
Updated August 25, 2008

The slide features a blue background with a circular pattern of dots. The IBM logo is in the top right corner. The text is centered and includes the product name in English and Japanese, the Rational software logo, and the business on demand logo. Copyright and update information are at the bottom right.

IBM Rational ClearQuest のデータベースに関する作業は、時に長いプロセスになります。このモジュールでは、ClearQuestデータベースを新しいロケーションに移動する方法をステップバイステップで説明します。移動は、同じデータベース製品、または別のデータベース製品へのどちらでも可能です。

# Speaker Notes

## モジュール目的

- モジュールの内容
  - ▶ 移動のオプション
  - ▶ オプション選択の検討
  - ▶ データベース移動の準備
  - ▶ 各オプションの詳細手順の説明
- このモジュールで習得できること
  - ▶ ClearQuest データベースセット (dbset) の移動, たとえば, スキーマリポジトリとその関連ユーザーデータベースの移動方法



データベースを移動するためには、データベース製品の情報にしたがって、新しい空の ClearQuest データベースを作成するか、または、データベース製品のツールを使用して、データベースのバックアップをリストアをするかの、いずれかの作業が必要になります。このモジュールでは、データベース製品の管理の経験、また、空の ClearQuest データベース作成の経験があることを前提としています。ClearQuest の管理ツール、メンテナンスツール、デザイナーに慣れ親しんでいることも前提としています。最後に、ClearQuest コマンドラインツール **installutil** の使用の経験があることも前提としています。

ClearQuest では、スキーマリポジトリとユーザーデータベースの 2 種類のデータベースがあります。スキーマリポジトリは、ひとつ、または、複数の関連したユーザーデータベースを持つことができます。このモジュールでは、スキーマリポジトリとひとつのユーザーデータベースから成るデータベースを移動する方法を説明します。しかし、このモジュールでの手順は、単一データベースを移動する際にも使用できます。

# Speaker Notes

## ClearQuest – 移動

データベースの移動の2つの方法:

1. メンテナンスツールとデザイナーにて提供される移動ツール
2. データベース製品のバックアップとリストアユーティリティー

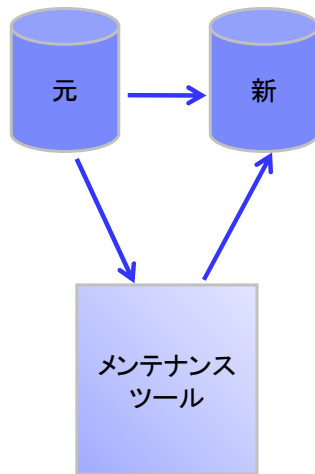


データベースの移動には2つの方法があります。最初の方法はClearQuest 移動ツールを使用する方法です。このツールは、元のデータベースにログインして、スキーマ、データ、そして、インデックスを引き出し、新しいデータベースロケーションへコピーします。この方法で、データベース製品の変更もできます。

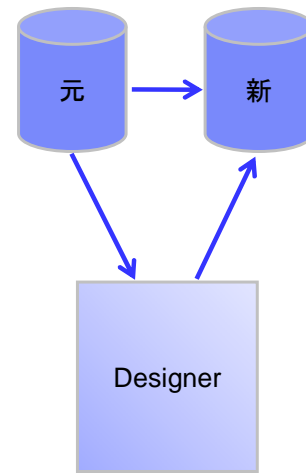
2つ目の方法は、データベース製品で提供されているバックアップとリストアユーティリティーを使用する方法です。それから、ClearQuestを使用して新しいデータベースへの接続を作成します。データベースのサイズによっては、より効率的な方法となるでしょう。

## ClearQuest – 移動ツールの方法1

### スキーマリポジトリ



### ユーザーデータベース

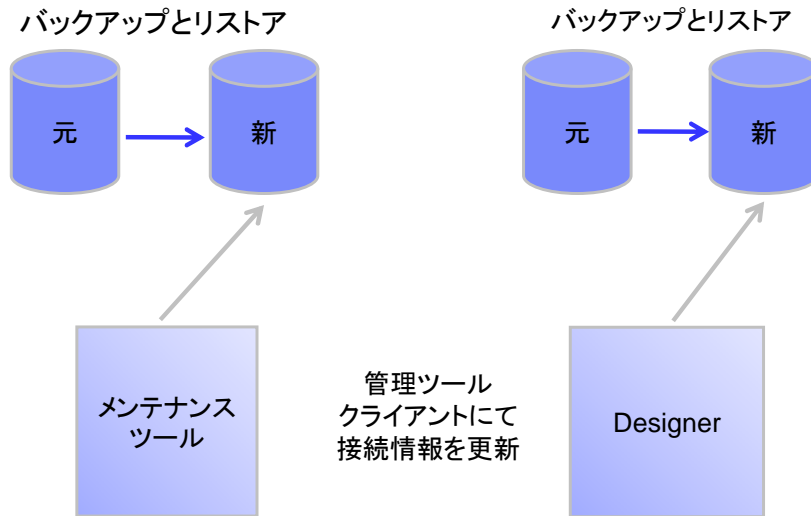


最初の方法として、移動ツールを使用する場合の方法を示します。

このツールは、元のデータベースにログインし、スキーマ、データ、そして、インデックスを、新しいデータベースロケーションへコピーします。移動中はデータベースがロックされることに注意してください。

スキーマリポジトリの処理にはメンテナンスツールが、ユーザーデータベースの処理にはデザイナーが使用されますので、移動の際にもデータベースのタイプに合わせて、それぞれの管理ツールを使用します。

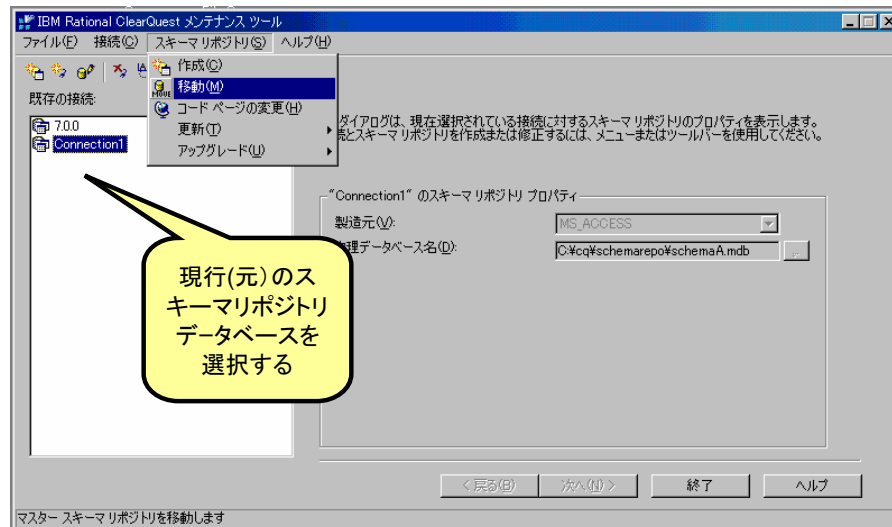
## ClearQuest – 移動ツールの方法2



2つ目の方法を示します。

元のデータベースをバックアップし、新しいロケーションでリストアします。接続情報は、それぞれのツールで更新します。

## 移動ツール: 詳細手順 – スキーマリポジトリ



まず、ClearQuest 移動ツールでの、データベースセットの移動を行ってみます。このあと、2つ目の方法の説明をしますので、その方法を選ぶ場合は、1つ目の方法に関するスライドを飛ばしても構いません。

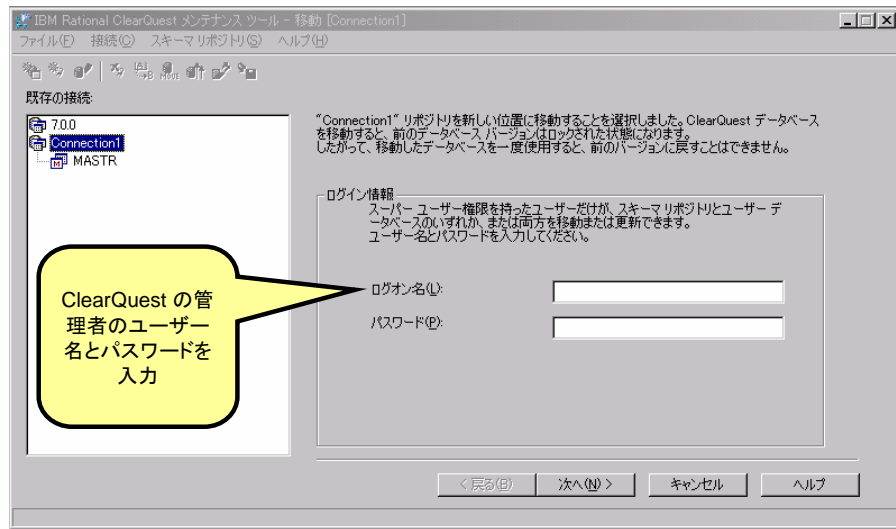
データベースベンダの説明にしたがって、新しい空のデータベースを2つ作成します。もし、1つのデータベースのみを移動する場合、新しいデータベースは1つだけ作成します。この説明では、データベースセットを移動することを前提とします。

スキーマリポジトリとユーザーデータベースのデータベースセットをバックアップします。続いて、すべてのClearQuestユーザーがログアウトしていて、新規ログオンができない状態であることを確認します。

メンテナンスツールを開き、現行(元)のスキーマリポジトリを選択します。  
スキーマリポジトリ > 移動 を選択します。

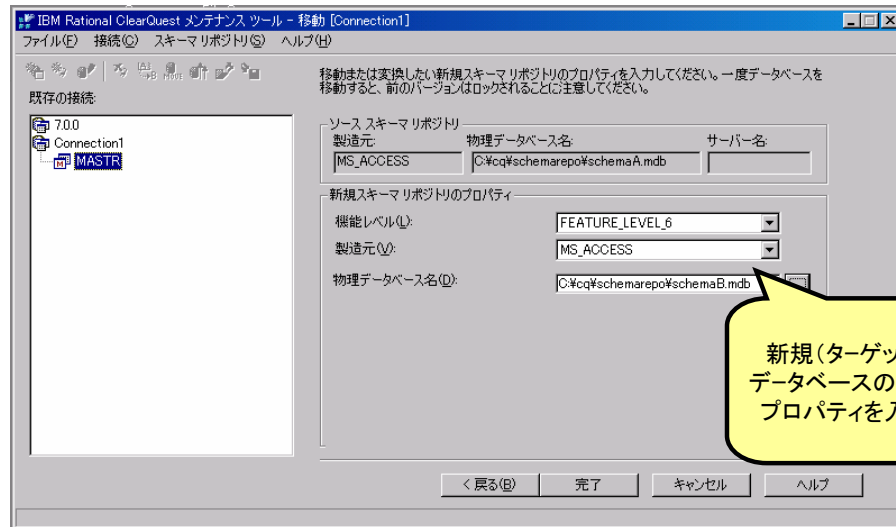
ここに示す例では、現行データベースセットは、“Connection1”の接続名となります。

## 管理者の承認



ClearQuestの管理者(スーパーユーザー)のユーザー名とパスワードを入力します。そして、次へをクリックします。

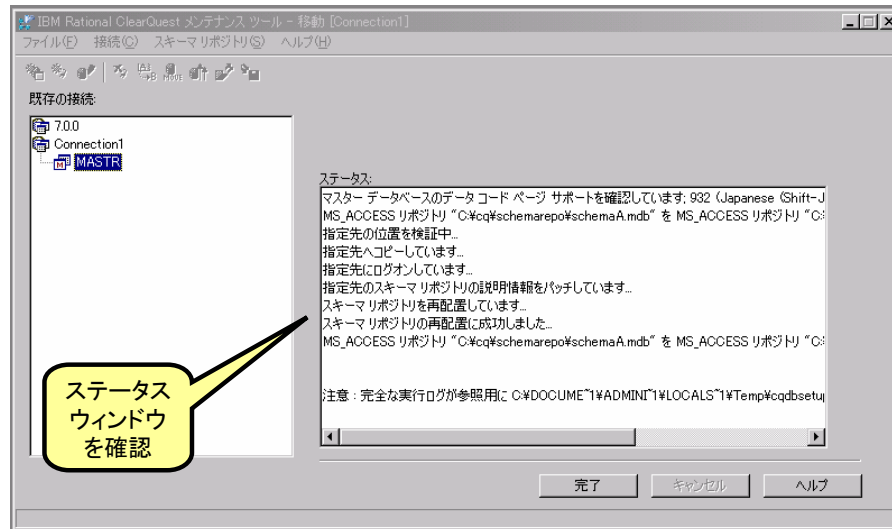
## 新しいロケーションの接続プロパティ入力



新規(ターゲット)データベースの接続プロパティを入力します。これは、新しいスキーマリポジトリとして、最初のステップで作成した空のデータベースのプロパティです。  
完了 をクリックします。



## ClearQuest 移動ログ状態



移動プロセスを実行すると、ClearQuest は、移動を開始し、その処理ごとにその内容をステータスウィンドウに出力します。“スキーマリポジトリの再配置に成功しました...” というメッセージと、ログファイルの場所を示すメッセージが表示されると完了です。

完了 ボタンをクリックすると、選択した接続には、新しいロケーションの接続プロパティーが登録されています。

## 一般的なエラー

- ClearQuest から新しいデータベースへ接続できない
- 失敗の後、データベースがロックされている

```
*****
ログ：例
*****
■ マスター データベースのデータ コード ページ サポートを確認しています： 932 (Japanese (Shift-JIS)) 文字セッ
ト。MS_ACCESS リポジトリ "C:\cq\schemarepo\schemA.mdb" を MS_ACCESS リポジトリ
"C:\cq\schemarepo\schemB.mdb" に移動しています。指定先の位置を検証中...
```

- 指定先へコピーしています...
- 指定先にログオンしています...
- 指定先のスキーマ リポジトリの説明情報をパッチしています...
- スキーマ リポジトリを再配置しています...
- スキーマ リポジトリの再配置に成功しました...
- MS\_ACCESS リポジトリ "C:\cq\schemarepo\schemA.mdb" を MS\_ACCESS リポジトリ
"C:\cq\schemarepo\schemB.mdb" に移動しました。

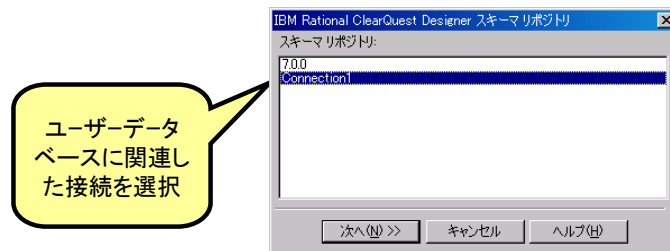
```
■ 注意：完全な実行ログが参照用に C:\DOCUME~1\ADMINI~1\LOCALS~1\Temp\cqdbsetup_status_20080701_1742_35.txt
に保存されました。
```



一般的なエラーは、ClearQuest から新しいデータベースロケーションに接続できない、または、データベースがロックされていることなどです。

もし、何かの理由で、移動が失敗した場合、現行のデータベースは、アンロックされます。もし、失敗のあとも、データベースがまだロックされている場合は、ClearQuestコマンドラインツール `installutil` のファンクション `unlockscemarepo` を使用してデータベースをアンロックできます。

## 移動ツール – ユーザーデータベース: designerにログオン



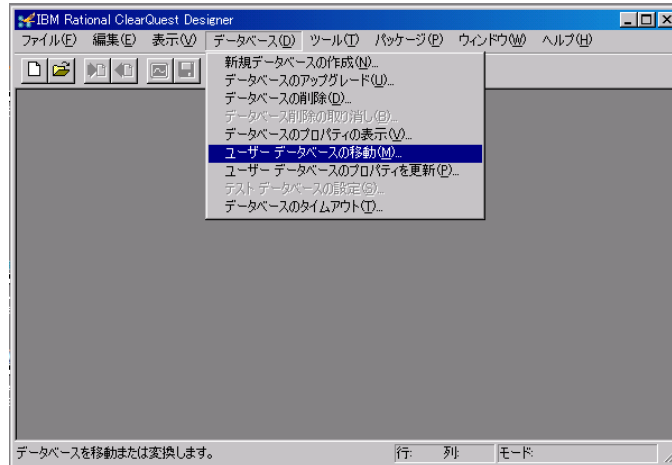
次は、関連づけられているユーザーデータベースを移動します。

同じ接続を使用して、Designer にログオンします。通常のログオンのように、ClearQuestの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

**次へ** をクリックします。

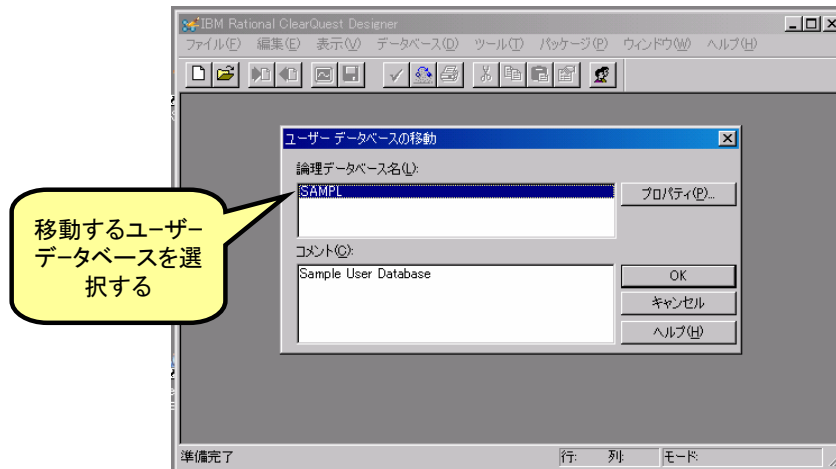
スキーマを開くダイアログボックスが表示された場合には、キャンセルをクリックします。

## 移動コマンドの選択



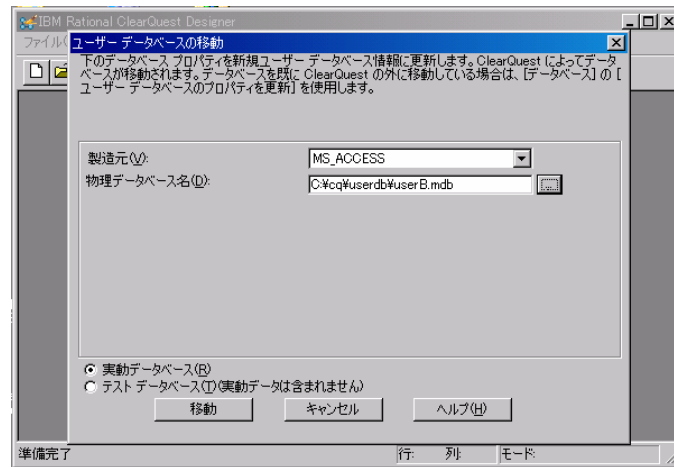
メニューからデータベース>ユーザーデータベースの移動 を選択します。

## 移動するユーザデータベースを選択



移動するユーザーデータベースを選択します。この例では、一つのユーザーデータベースのみがこのスキーマリポジトリに関連しています。もし、複数のユーザーデータベースを移動する場合、各ユーザーデータベースの移動のステップを繰り返す必要があります。そして、**プロパティ** ボタンを選択します。

## 接続プロパティの更新

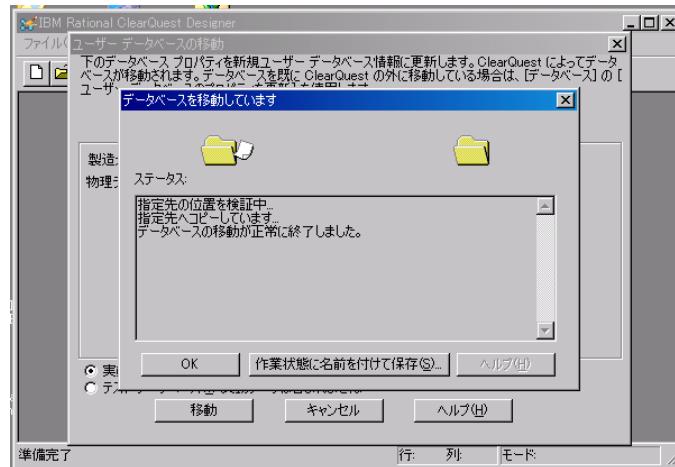


現行の接続プロパティが、変更できる状態が表示されます。

新しい接続プロパティを入力します。新しいユーザーデータベースのロケーションとして、最初のステップで作成した空のデータベースのプロパティを入力します。

**移動** ボタンをクリックします。

## ClearQuest 移動のログステータス

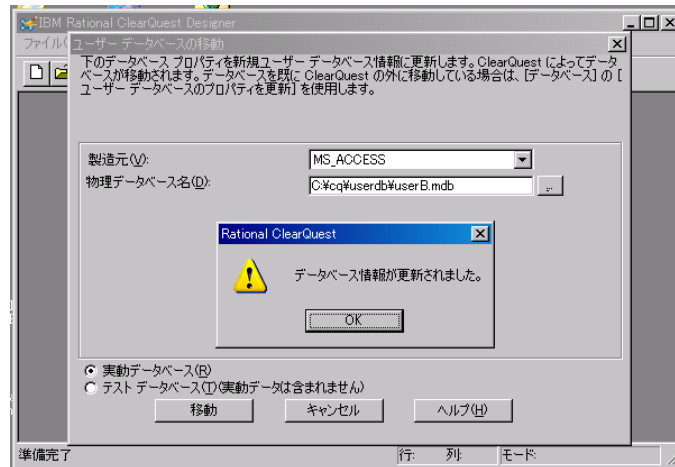


ClearQuestは移動を開始し、処理中にその過程ごとのログをステータスウィンドウに出力します。“データベースの移動が正常に終了しました。”のメッセージで完了します。ステータスウィンドウの出力ログはファイルに保存することもできます。

スキーマリポジトリと同様に、移動中にデータベースがロックされます。なんらかの理由で、移動が失敗した場合、現行のデータベースは、アンロックされます。失敗のあとも、データベースがまだロックされている場合は、ClearQuestコマンドラインツール **installutil** のファンクション **unlockuserdb** を使用してデータベースをアンロックできます。

エラーが発生した場合には、さらに原因調査するために、そのログをコピーし、保存することが重要となります。

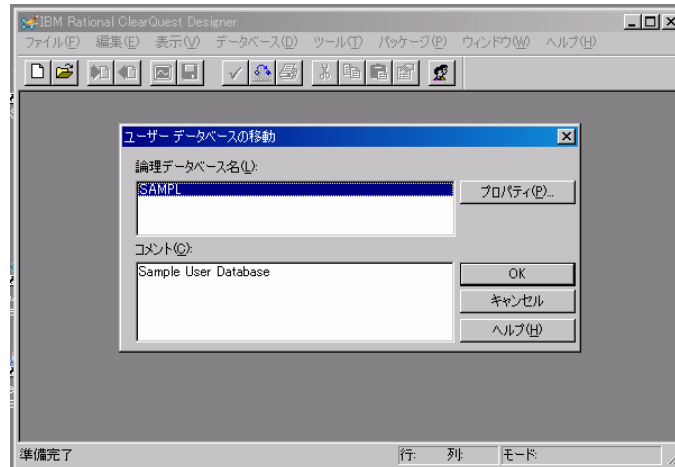
## データベース接続プロパティの更新



ClearQuest から、接続情報が更新されたとのメッセージが表示されます。  
OK ボタンをクリックします。



## 他のユーザデータベースの移動、または、キャンセル



複数のユーザーデータベースを移動する場合で、それぞれの空の新規データベースを作成ずみの場合、他のユーザデータベースを選択して、接続プロパティを更新し、移動を続けることができます。また、空のデータベースを作成していない場合は、ここでは キャンセル をして、データベース作成後に、Designer に再度ログインします。

ここでは、**キャンセル** をクリックします。これで、ClearQuest クライアントからログオンできるようになります。

## バックアップとリストア: 詳細手順

- 全てのClearQuest ユーザーがログアウトし、新規ログインができない状態であることを確認
- 現行(元)データベースのバックアップ
- 新規(ターゲット)ロケーションへリストア
- データベース製品
  - ▶ DB2®
  - ▶ Oracle
  - ▶ SQL Server™



次のいくつかのスライドで、2つ目の方法について、見ていきましょう。ベンダから提供されているツールでリストアする方法については、すでに知識があることを前提に説明します。ここでの説明に不明な点がある場合、リストア手順の詳細については、データベース管理者へ確認ください。

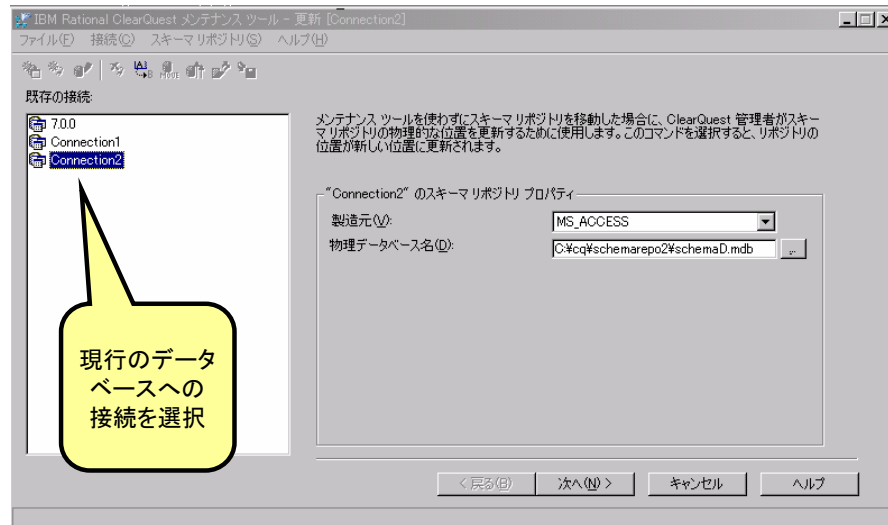
DB2の場合、オペレーティングシステムレベルでアクセス認証するという前提のため、新しいオペレーティングシステム上で、ClearQuest データベースのユーザー名が作成されていることを確認します。リストア後、ClearQuestデータベースに設定されている接続プロパティとユーザー権限を確認します。

オラクルの場合、インポート後、ClearQuest データベースのユーザー名に同じロールが設定されていることを確認します。

SQL Server の場合、リストアのための新しいユーザー名を作成後、SQLコマンドを使用して、ClearQuestスキーマ名を、その新しいユーザ名に更新する必要があります。

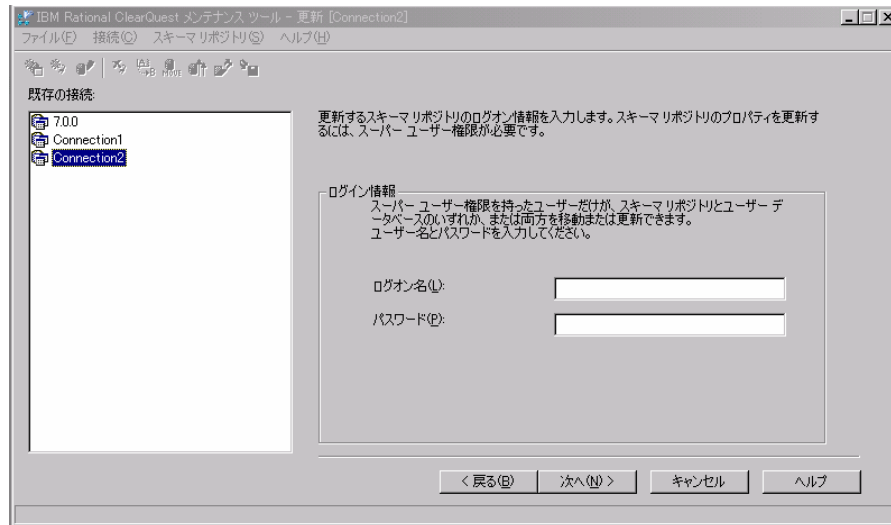
次に、ClearQuestの接続プロパティの更新をします。

## 接続プロパティの更新



メンテナンスツールにて、現行のデータベースへの接続を選択します。  
そして、スキーマリポジトリ > 更新 > 選択した接続 を選択します。

## 管理者の承認



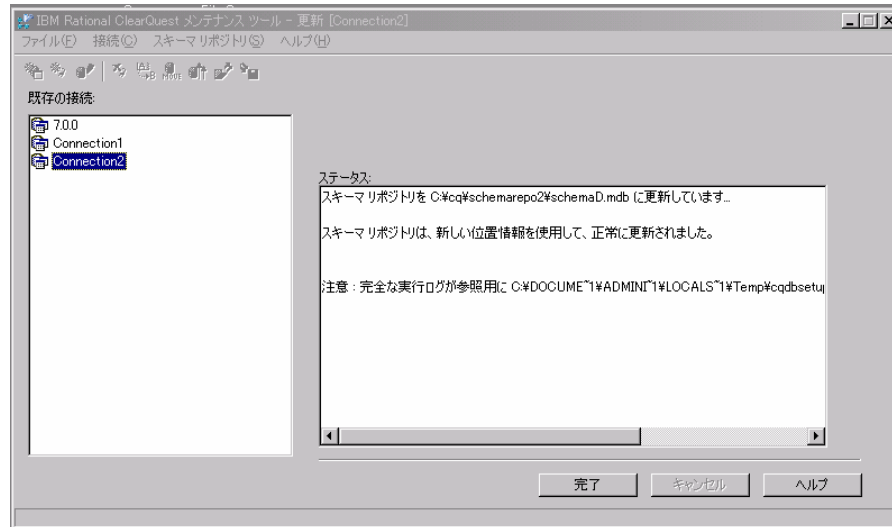
20

Moving ClearQuest databases

© 2007 IBM Corporation

ClearQuestの管理者(スーパーユーザー)のユーザー名とパスワードを入力します。そして、**次へ**をクリックします。

## 接続プロパティの更新完了



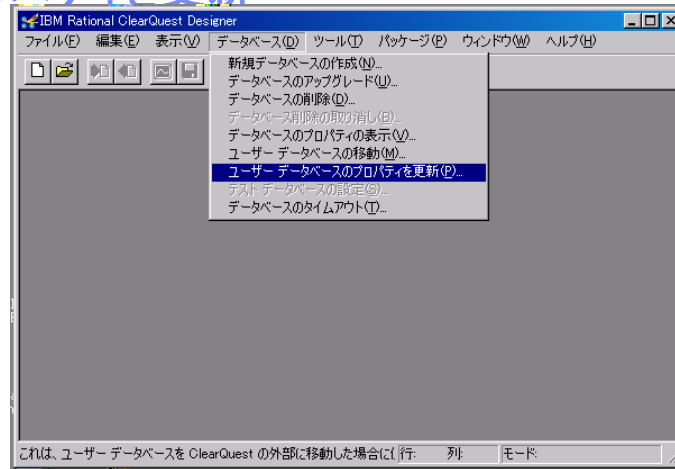
21

Moving ClearQuest databases

© 2007 IBM Corporation

ClearQuestは、接続更新の結果のログを出力します。“スキーマリポジトリは、新しい位置情報を使用して、正常に更新されました...”. というメッセージが出力され終了します。完了をクリックするとメンテナンスツールのメイン画面に戻ります。

## リストアしたユーザーデータベースの 接続プロパティを更新

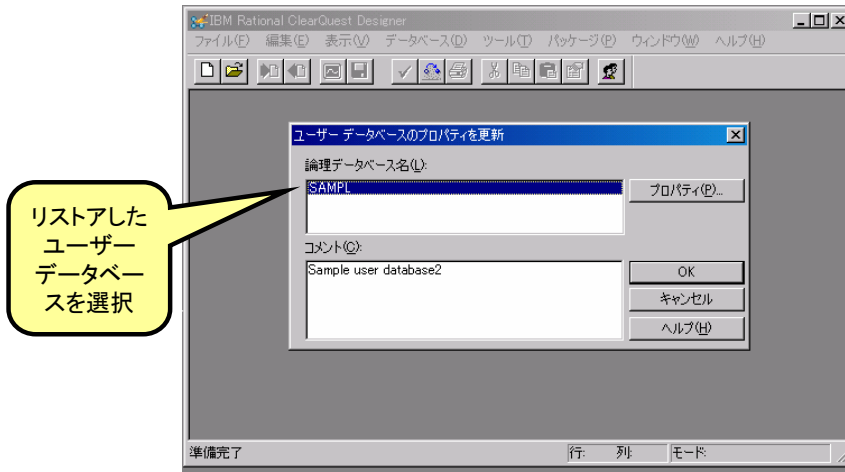


次に、ユーザーデータベースの更新が必要です。

同じデータベース接続にて、Designerを開きます。

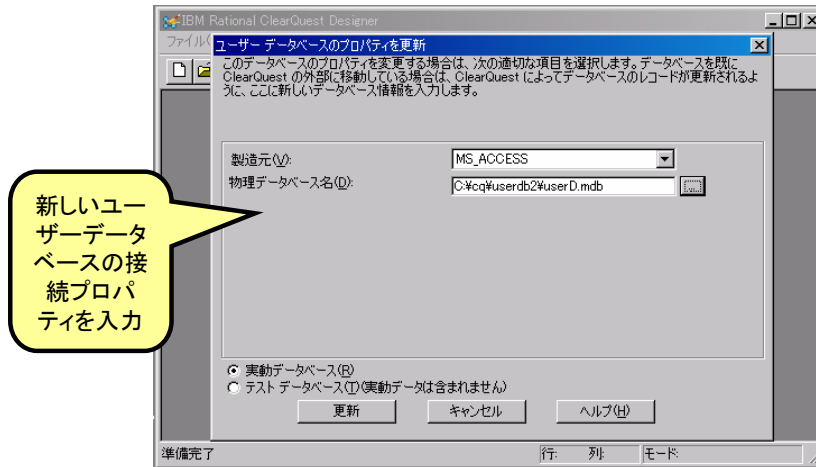
そして、データベース > [ユーザーデータベースのプロパティを更新] を選択します。

## リストアしたユーザーデータベースを選択



リストアしたユーザーデータベースを選択します。この例では、スキーマリポジトリに関連したユーザーデータベースは1つです。  
そして、**プロパティ**を選択します。

## 接続プロパティを入力



新しいユーザーデータベースの接続プロパティを入力します。そして、**更新**をクリックします。「データベースプロパティは更新されました」のメッセージが表示されます。



## まとめ

- ClearQuest には、データベース移動する 2 つの方法
  - ▶ ClearQuest 移動ツール
    - サポートされていて推奨される方法
    - データベース製品の変更も可能になる利点
  - ▶ データベース製品のバックアップとリストアユーティリティ
    - より効率的だが、詳細が要求される方法
    - データベースの管理者知識とスキルが要求される



まとめますと、ClearQuest には、データベース移動する方法が、2つあります。ClearQuest の移動ツールを使用する方法と、データベース製品のバックアップ・リストアユーティリティを使用する方法です。ClearQuest の移動ツールを使用する方法は、サポートされた方法で、より推奨されます。データベース製品の変更も可能になる利点もあります。先に空のClearQuest データベース作成が必要となることに注意してください。データベースベンダのバックアップ・リストアユーティリティを使用する方法は、より効率的な場合がありますが、詳細が要求される方法で、データベースの管理者知識とスキルが要求されます。

いずれの方法でも、新しいデータベースロケーションへ正常に接続することができます。ほとんどの問題は、データベースが正常にリストアされていない、接続情報が正確でないことが原因となります。それらの問題を解決するには、新しいデータベースの作成やリストアを行ったデータベース管理者に確認してください。

## フィードバック

IBM Education Assistant の向上のためのご意見・ご要望をお送りください。  
いただいたご意見・ご要望は今後の参考にさせていただきます。

- このモジュールは参考になりましたでしょうか
- このモジュールによって問題を解決、または疑問にお答えできましたでしょうか
- 改善のためのご意見をお寄せください

以下をクリックしてeメールを送付ください:

[mailto:iea@us.ibm.com?subject=Feedback\\_about\\_RCQ\\_Module1\\_WWDB\\_MoveDBs\\_ja.ppt](mailto:iea@us.ibm.com?subject=Feedback_about_RCQ_Module1_WWDB_MoveDBs_ja.ppt)



IBM Education Assistant の向上のため、お客様のご意見・ご要望をお送りください。いただいたご意見・ご要望は今後の参考にさせていただきます。

## Trademarks, copyrights, and disclaimers

The following terms are trademarks or registered trademarks of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both:

ClearQuest DB2 IBM Rational

Rational is a trademark of International Business Machines Corporation and Rational Software Corporation in the United States, Other Countries, or both.

SQL Server, Windows, and the Windows logo are registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States, other countries, or both.

Product data has been reviewed for accuracy as of the date of initial publication. Product data is subject to change without notice. This document could include technical inaccuracies or typographical errors. IBM may make improvements or changes in the products or programs described herein at any time without notice. Any statements regarding IBM's future direction and intent are subject to change or withdrawal without notice, and represent goals and objectives only. References in this document to IBM products, programs, or services does not imply that IBM intends to make such products, programs or services available in all countries in which IBM operates or does business. Any reference to an IBM Program Product in this document is not intended to state or imply that only that program product may be used. Any functionally equivalent program, that does not infringe IBM's intellectual property rights, may be used instead.

Information is provided "AS IS" without warranty of any kind. THE INFORMATION PROVIDED IN THIS DOCUMENT IS DISTRIBUTED "AS IS" WITHOUT ANY WARRANTY, EITHER EXPRESS OR IMPLIED. IBM EXPRESSLY DISCLAIMS ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE OR NONINFRINGEMENT. IBM shall have no responsibility to update this information. IBM products are warranted, if at all, according to the terms and conditions of the agreements (for example, IBM Customer Agreement, Statement of Limited Warranty, International Program License Agreement, etc.) under which they are provided. Information concerning non-IBM products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. IBM has not tested those products in connection with this publication and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-IBM products.

IBM makes no representations or warranties, express or implied, regarding non-IBM products and services.

The provision of the information contained herein is not intended to, and does not, grant any right or license under any IBM patents or copyrights. Inquiries regarding patent or copyright licenses should be made, in writing, to:

IBM Director of Licensing  
IBM Corporation  
North Castle Drive  
Armonk, NY 10504-1785  
U.S.A.

Performance is based on measurements and projections using standard IBM benchmarks in a controlled environment. All customer examples described are presented as illustrations of how those customers have used IBM products and the results they may have achieved. The actual throughput or performance that any user will experience will vary depending upon considerations such as the amount of multiprogramming in the user's job stream, the I/O configuration, the storage configuration, and the workload processed. Therefore, no assurance can be given that an individual user will achieve throughput or performance improvements equivalent to the ratios stated here.

© Copyright International Business Machines Corporation 2007. All rights reserved.

Note to U.S. Government Users - Documentation related to restricted rights-Use, duplication or disclosure is subject to restrictions set forth in GSA ADP Schedule Contract and IBM Corp.

